朝鮮社会科学者協会

通　報



2

2024

目　次

【訪問談】

【国と地域は異なっても】

朝鮮労働党中央委員会第８期第10回総会が行われる

朝鮮革命特有の忠誠と愛国の底知れない力、一心団結の不敗の力を絶えず噴出させて第８回党大会と各党中央総会で策定、明示された実践綱領を赫々たる成功と目覚ましい変革で貫徹していくという全党と全人民の革命的熱意が非常に発奮、昇華している中、朝鮮労働党中央委員会第８期第10回総会が2024年6月28日から7月1日まで行われた。

総会は、党中央委員会第８期第９回総会で決定された2024年の国家活動方向と諸般の課題の成功裏の貫徹のために上半期の活動実態を総括し、下半期の活動に拍車をかける問題、幹部の活動作風と指導能力を改善する問題、国の司法制度を補強・完備する問題をはじめ現実的にも、展望的にも極めて切実な議案を討議、決定した。

朝鮮労働党中央委員会第８期第10回総会では、全党と全人民の一致団結と強靭な愛国闘争によって2024年の闘争目標を成功裏に完遂して2024年を昨年よりさらに有意義な成果で満ちた新しい変革の年にするということについて重要に強調された。

朝鮮労働党中央委員会第８期第１０回総会は、敬愛する金正恩総書記の絶対的権威と偉大な革命思想の不敗の威力によって、共和国の発展史を尊厳と栄光、繁栄の百年の大計でつなぎ、社会主義文明が開化する人民の理想社会を築いていく朝鮮労働党の革命的面目と戦闘的気概をより力強く誇示した意義深い契機、朝鮮革命の発展途上における今一つの画期的転換の契機となる。

「主権と自主、新しい国際関係」に関するヨーロッパ・チュチェ思想セミナーがブルガリアで開催

朝鮮民主主義人民共和国創建 76 周年に際して「主権と自主、新しい国際関係」に関するヨーロッパ・チュチェ思想セミナーが 2024 年 9 月 8 日、ブルガリアのソフィアで開かれた。

セミナーには、ヨーロッパ地域のチュチェ思想研究会理事長、書記長、理事と地域のチュチェ思想研究組織の責任者、チュチェ思想国際研究所事務局代表団のメンバー、ブルガリアの各界人士などが参加した。

チュチェ思想国際研究所事務局長尾上健一氏、ヨーロッパ地域のチュチェ思想研究会副理事長キス・ベンネット氏とロシア、イタリア、セルビアなど、数カ国のチュチェ思想研究者がオンラインでここに参加した。

セミナーでは、アジア地域チュチェ思想研究所、アフリカ地域チュチェ思想研究委員会、ラテンアメリカ・チュチェ思想研究所から送られた祝電が紹介され、チュチェ思想国際研究所事務局長が祝賀のスピーチをおこなった。

セミナーではヨーロッパ・チュチェ思想研究会理事長マッテオ・カルボネリ氏の基調報告につづいて討論があった。

報告者と討論者は、チュチェ思想を偉大な金日成・金正日主義に深化、発展させ、世界の自主化の流れを主導していく金正恩総書記を不世出の偉人として高く褒め称えながら、朝鮮人民の闘争によってチュチェ思想の真理性と正当性、生命力が実証されている、この偉大な思想が具現された朝鮮こそは人類の灯台であると称揚した。

彼らは、不滅のチュチェ思想は真の自主性にもとづいた主権尊重の原則で新しい国際関係の樹立を志向する世界の進歩的人民にとって生

と闘争の旗印となっているということについて、世界の反帝・自主勢力が一致団結して帝国主義覇権勢力の策動を粉砕し、自主化された新しい世界建設に積極的に奮い立つべき必要性について言及した。

同セミナーは、帝国主義者の強権と専横を排撃し、平等と相互尊重、協力の精神にもとづいて新しい国際秩序を確立しようとする世界人民の志向と念願がいつにもまして強烈になっている時期に、ヨーロッパ諸国に提起される懸案問題をチュチェ思想と結びつけて討論し、各国の具体的な実情に合う解決方途を模索する上で有意義な集いになるだろうと主張した。

彼らは各国の主権と世界の自主化のために金日成・金正日主義研究普及活動をより積極化していくことについて強調した。

セミナーでは金正恩総書記に送る手紙が採択された。

【思想理論解説】

偉大な金正恩総書記の革命思想は科学的で百科全書的な実践綱領

偉大な金正恩総書記の革命思想は時代性、現実性と多方面性、独創性と創造性、親和力で特徴づけられる科学的で百科全書的な実践綱領である。

偉大な金正恩総書記の革命思想は時代の推移を正しく反映し、複雑多難な情勢と環境を主動的に打開していける進路と対応策を示す実践綱領である。偉大な金正恩総書記の革命思想には時々刻々変遷する情勢と環境に合わせて革命の前進と発展を確固と保証する革命的な戦略と適時の闘争方針が明示されている。

偉大な金正恩総書記の革命思想は現実的条件と可能性にたいする科学的分析にもとづいて発展の潜在力と底力を総動員させ、すべての分野で絶え間ない前進飛躍を遂げるようにする、解決法と方法論を示す実践綱領である。偉大な金正恩総書記の革命思想には革命実践の要求と各分野の具体的な実態が反映されており、人民の不屈の精神力と朝鮮特有の組織力と団結力、自立経済の威力にもとづく実現可能性が明示されており、内在している弊害と欠点を早急に正し、すべての発展潜在力を効率的に動員して変革的実体に切り換えるようにする、明快な解決法と方法論が集大成されている。

偉大な金正恩総書記の革命思想は既成慣例と既存の公式にこだわらず、すべてのことを大胆に革新して新たに創造するようにする、発展指針と名案を示す実践綱領である。偉大な金正恩総書記の革命思想には世界の変化によってわれわれが変わるのではなく、世界がわれわれに沿って変わるようにしなければならないというチュチェの発展観

が込められており、絶えず新しいもので世界を驚嘆させ、時代を前進させていく人民大衆の知恵と努力が圧縮されており、人々を崇高な理想と抱負で目覚めさせ、新時代へと引導する創造の基準が集大成されている。

偉大な金正恩総書記の革命思想は誰もが容易に理解し、自ずから共感するようにする、限りない親和力と感化力をもった実践綱領である。

偉大な金正恩総書記の革命思想の具現である朝鮮労働党の路線と政策、指針はいずれも大衆が自ずと共感し、自分のものとして受け入れられるように理路整然としていながらもよく理解できるように分かりやすく叙述されている。

斬新な革新性は偉大な金正恩総書記の革命思想の主な特徴

偉大な金正恩総書記の革命思想は金日成主席と金正日国防委員長の革命思想を継承し、新時代の革命実践の要求に即して斬新に深化・発展させた革命思想であるというところにその特徴の一つがある。

偉大な金正恩総書記の革命思想は、偉大な金日成・金正日主義が闡明したすべての原理と内容を純潔に継承しながらも新たな原理と内容でそれを革新的に、科学的にさらに発展豊富化した。

偉大な金正恩総書記の革命思想は人間中心、人民大衆中心の哲学思想であるチュチェ思想を新時代の革命実践の要求に即して深化・発展させて新たな革命哲学を明らかにした。

革命哲学はチュチェ思想が明らかにした哲学的諸原理に基づいて党と革命隊伍の一心団結をさらに強化し、その威力を全面的に強化す

る上で重要な意義を持つ新たな哲学的諸問題、つまり、人間の集団主義的要求と政治意識、領袖の地位と役割、チュチェの人民観、人民哲学、信頼の哲学を革命原理の内容として提起し解明している。革命哲学は自主的立場を堅持し、創造的方法を具現し、思想を基本に捉えていくというチュチェ思想の指導的原則を朝鮮革命の実践的要求に即して深化・発展させて自主、自存と思想第一主義、新たな革新、大胆な創造、不断の前進を主な内容とする革命原則を明示した。

偉大な金正恩総書記の革命思想は、人民の理想社会の建設を進めるための斬新かつ独創的な戦略戦術と実践綱領を明示してチュチェの革命理論を発展豊富化した。

自強力第一主義の路線とすべての革命陣地を3大革命化するという路線、人々の思想的・精神的品格を基本にして共産主義社会の本質と共産主義建設の基本要求を新たに明示してくれる思想理論、社会主義の全面的発展に関する思想理論はチュチェの社会主義、共産主義建設理論を斬新に革新し、かつてなく発展豊富化した思想理論である。

新時代の党建設路線、国家建設路線、革命武力建設路線、全人民科学技術人材化に関する思想をはじめ、部門別の路線と思想理論もチュチェの革命理論の深化・発展である。

偉大な金正恩総書記の革命思想はチュチェの指導方法もさらに深化・発展させている。

全国が党中央と思想と意志、行動を共にする一つの生命体になるようにすることを唯一的指導体系確立の理想的な目標として掲げたのはチュチェの指導方法が闡明した革命的指導体系に関する思想を斬新に革新した独創的な思想理論である。

老練な大衆活動方法と尖入式活動方法を大いに活用するという思想、幹部の展開力、闘争力、実践力を高めるという思想、実直性と清廉潔白性を奨励するという思想をはじめ、幹部が身につけるべき活動

方法と活動態度、共産主義的品格に関する思想もチュチェ思想が明らかにした大衆指導方法を一段と発展豊富化したものである。

思想第一主義の原則

思想第一主義の原則は偉大な金正恩総書記の革命思想が明らかにした革命原則の重要な内容である。

思想第一主義は革命と建設で思想を第一の武器とし、すべての問題を思想重視、思想改造、思想啓発の方式で解決していくという革命原則である。言い換えれば、すべての問題を経済万能主義、物質万能主義、技術万能主義ではなく思想活動を優先させ、人々を教育、改造し、人民大衆の思想・精神力を発揮させる方法で解決していくという革命原則である。

思想第一主義の原則を堅持するのは社会主義政権党の存立と強化発展の先決条件であり、革命と建設にたいする政治的指導の実現の根本的保証である。

人民の運命にたいして責任を持って革命を行う社会主義政権党にとって唯一の武器、もっとも威力ある武器は思想である。思想なくしては革命的党が生まれることも存在することもできず、思想活動を抜きにした党活動、革命闘争というものはありえない。

思想第一主義の原則を堅持する上で重要なのは何よりもまず、革命と建設で思想重視の原則を確固と堅持していくことである。

革命と建設で思想を重視するというのは、すべての問題を思想的要因に決定的意義を付与し、思想活動、政治活動を優先させる原則で解決していくということである。

思想第一主義の原則を堅持する上で重要なのは次に、思想改造事業を社会主義政権党と政府の中核的な課題としていくことである。

思想第一主義の原則を堅持する上で重要なのは次に、革命と建設で提起されるすべての問題を人々の思想を啓発する方法で解決していくことである。

新たな革新、大胆な創造、不断の前進の原則

新たな革新、大胆な創造、不断の前進の原則は偉大な金正恩総書記の革命思想が明らかにした革命原則の重要な内容である。

新たな革新、大胆な創造、不断の前進は社会主義建設のすべての部門で非革命的で非戦闘的な立ち遅れたあらゆるものを払拭し、革命の最終的勝利を得る時まで引き続き革新し、引き続き前進していくという革命原則である。言い換えれば、すべての部門、すべての分野で図式と硬直、渋滞と逡巡、自慢と自賛を警戒し、自責と反省を奨励しながら革命的で戦闘的な闘争気風、闘争気質、闘争気概で新たな変化と発展に向けて力強く闘っていくという革命原則である。

新たな革新、大胆な創造、不断の前進は、国家発展の合法則的要求、朝鮮革命の歴史的経験と社会主義建設の新たな勝利に向けた朝鮮革命実践の要求を反映した革命原則である。

新たな革新、大胆な創造、不断の前進の革命原則を堅持する上で重要なのは、人々の思考と活動態度から根本的に一新させ、国家の活動全般を、革新と創造、前進を志向し、奨励する方向へ確固として転換させ、すべてのものを世界的水準で創造し発展させていくことである。

社会主義強国の表徴と強国建設の地位

偉大な金正恩総書記の革命思想は新たな発展局面に入った革命実践の要求に応じて強国建設を社会主義、共産主義偉業遂行のための現段階の基本闘争課題に規定し、国力評価の基準と国力強化の決定的要因、社会主義強国の表徴とその建設の歴史的地位を科学的に示している。

国力評価の絶対的基準は人民の笑い声である。国力評価の基準が人民の笑い声であるという意味は、国力の強弱が人民の笑い声がどれほど明るくて高いかによって決定されるということである。人民の明るくて朗らかな笑い声は本質において、何の心配もなく無病息災で裕福に、文化的で睦まじく暮らす幸福な生活にたいする情緒的感興であり、人民の尊厳ある幸せな生活を保証する国家社会制度と国力にたいする誇りと自負心の噴出である。人民の笑い声には国家の人民的施策にたいする感謝と強国の公民となった自負、強大な国力の創造者、享受者としての自負と喜悦、国家の繁栄・発展に積極的に寄与しようとする自覚と意志が感情・情緒的に濃く込められる。

国力強化の決定的要因は卓越した領袖の偉大な思想と指導にある。卓越した思想と理念、特出した包容力と指導力、人民にたいする熱い徳と情、比類ない胆力と意志をもった政治指導者のみが千変万化する時代の推移と人民の要求を正しく結びつけて国力強化へと志向させることができ、列強との鋭い対決を伴う国力競争を確信をもって主導していくことができる。今日、朝鮮人民は金正恩総書記を高くいただいて誰も手出しができない強国人民の尊厳と栄誉を轟かせており、朝鮮の全般的国力と戦略的地位は民族史上、最高の境地に至るようになった。

社会主義強国は、国力が強く、限りなく繁栄し、人民がこの世に羨むことのない幸せな生活を思う存分享受する天下第一の強国である。政治思想的威力と軍事力、経済技術力、文明水準は国力の基本要素である。国力の基本要素の見地から見るとき、社会主義強国は政治思想強国、軍事強国、科学技術強国、経済強国、先進文明国である。

社会主義、共産主義偉業の遂行において強国建設の地位は金日成・金正日主義の要求通りに社会主義の基礎をさらに強化し、社会主義の完全勝利を成し遂げるための歴史的段階であり、合法則的過程であるということにある。社会主義強国建設は社会主義の完全勝利を保証する政治的・軍事的力量を強化し、経済技術的・文化的土台を築き、社会主義制度の優越性を全面的に発揮させていく合法則的過程である。

社会主義の全面的発展

偉大な金正恩総書記の革命思想は朝鮮式社会主義建設が活気づいた発展の局面に入った時代の要請に即して、政治的・軍事的威力を全面的に強化しながら、経済、文化分野を同時的に、均衡的に発展させて強国建設の偉業を立派に完遂するための社会主義の全面的発展に関する独創的な理論を示した。

社会主義を全面的に発展させるということは一言で言って、社会主義建設のすべての分野、国のすべての地域、人民経済のすべての部門の同時的かつ均衡的な発展を成し遂げるという意味である。言い換えれば、進歩と立ち遅れが並存する不均衡的、非典型的な発展に終止符を打ち、すべての分野と部門、地域をともに等しく発展させ、進んで

は自立、自存によって繁栄する社会主義強国を建設するという意味である。

社会主義の全面的発展は社会主義建設の各部門の全面的発展とすべての市、郡の自立的で多角的な発展、国家経済全般の同時的で均衡的な発展を内容とする。

政治と国防、経済と文化建設は強国の夢と理想を実現する上で共に重視し、解決すべき歴史的課題である。

社会のすべての分野は互いに有機的に結びついているので、政治と国防、経済と文化のある分野だけを重視しては社会主義の全面的発展を遂げることができない。政治的・軍事的威力の強化に第一義的な力を入れながらも、経済と文化を同時に均衡的に発展させてこそ、全般的国力を強化し、強国建設偉業を推し進めることができる。

社会主義建設の各部門の全面的発展を成し遂げるためには、朝鮮式社会主義の政治的・思想的威力を強化することに引き続き大きな力を入れるべきであり、国家防衛力の強化を中核的な課題として堅持しなければならず、経済建設を力強く進めて自立経済の土台を強化し、人民生活を安定、向上させなければならず、科学と教育、保健医療をはじめ、社会主義文化のすべての分野をさらに発展させなければならない。

市、郡は朝鮮労働党の政策を執行する末端単位であり、農業と地方経済を指導する地域的拠点であり、国の全般的発展を支える強力なとりでである。

市、郡を自立的に、多角的に発展させるというのは、全国の全ての市、郡を文明的で富強な社会主義強国の戦略的拠点、それぞれ固有の特色を持つ発達した地域につくるということである。言い換えれば、全ての市、郡を政治と経済、文化の各方面で朝鮮特有の発展面貌と自

己の地域の特性が凝縮された地方都市、文化的な拠点に転変させるということである。

市、郡の自立的で多角的な発展を促す上で重要なのは、社会主義農村建設を重要な国策にとらえて推進させることであり、地方工業を活性化し、発展させることであり、市・郡所在地の面貌を一新させることを大胆かつ、頑強に推し進めることである。

2024 年から朝鮮では朝鮮労働党が示した「地方発展 20×10 政策」が強力に推進されている。朝鮮労働党が示した「地方発展 20×10 政策」の真髄は、地方産業革命の強力な推進で地方の世紀的な立ち遅れを払拭して地方の人民の宿望をかなえてやることによって全国人民の福利を増進させ、権益を守護しなければならないということである。具体的に近代的な地方工業工場の建設を毎年 20 の郡ずつ間違いない政策的課題として党が直接とらえ、きちんと実行して、今後 10 年内に全ての市、郡の地方工業工場を近代化し、全国的範囲で初歩的な物質文化生活水準を一段と飛躍させることである。

金正恩総書記は 2024 年 1 月 23 日から 24 日まで行われた朝鮮労働党中央委員会第 8 期第 19 回政治局拡大会議で行った綱領的な演説、2 月 7 日にあった金化郡の地方工業工場にたいする現地指導と 28 日にあった成川郡の地方工業工場建設の着工式で行った意義深い演説で「地方発展 20×10 政策」を実行していく上で提起される諸問題について具体的な助言を行った。

金正恩総書記は 2024 年 8 月 24 日と 25 日の両日、複数の地方工業工場建設場を現地で指導しながら、地方経済の発展と人民生活の改善において明確な変化をもたらすための党の「地方発展 20×10 政策」を確実に実行していく上で、現在推進している地方工業工場の建設とともに、先進的な保健医療施設と科学技術普及拠点、穀物管理施設の建設を並行させることで、地方中興の歴史的偉業を加速させていく新し

い方向を示し、その実現のための重大措置を取った。そして 8 月 31 日と 10 月の初めには新しく追加、付加された 3 大建設の課題遂行で堅持すべき諸般の原則と方途を具体的に明らかにした。

国家経済の自立性の強化で重視すべき問題は、人民経済のすべての部門を共に全般的に発展させることである。

国家経済を自立化する目的は、単に自力で生産して生きていこうとすることにのみあるのではなく、経済の全般部門を均衡的に発展させて世界的水準に引き上げようとするところにある。

新時代の農村革命綱領

偉大な金正恩総書記の革命思想は、社会主義の全面的発展期の要求に即して農村振興を強力に促すことにより朝鮮労働党の遠大な社会主義農村建設構想を実現するための新時代の農村革命綱領を示した。

新時代の農村革命は朝鮮労働党の社会主義農村建設の目標を成功裏に達成して農村問題を終局的に解決するための変革的な闘争である。言い換えれば、全ての農業勤労者を共産主義的人間につくり、国の農業を確固たる上昇段階に引き上げ、朝鮮式社会主義農村の飛躍的発展を成し遂げるための闘争である。

新時代の農村革命綱領は農村革命の歴史的必然性、農村革命の目標と当面の農村発展戦略、農村革命の基本要求、農村革命の基本課題とその遂行方途をはじめ、朝鮮で社会主義農村問題を立派に解決するための理論的・実践的問題を全面的に集大成している。

新時代の農村革命は社会主義、共産主義建設の合法則的要求であり、経済を発展させ、人民生活を向上させて国の全般的国力と戦略的地位を新たな高い段階に引き上げるための必須的要求である。

朝鮮労働党の社会主義農村建設目標は、全国の農村をチュチェ思想化し、物質的に豊かにすることである。言い換えれば、全ての農業勤労者をチュチェ思想でしっかり武装した共産主義的人間につくり、チュチェ思想の要求通りに農業生産と農村建設で根本的な改造変革を成し遂げて農村問題を最終的に解決することである。農業勤労者の思想意識水準の向上、農業生産力の飛躍的発展、農村生活環境の根本的な改変、これが朝鮮式農村発展でどれも取り落とすことなく達成すべき目標である。

朝鮮労働党の当面の農村発展戦略の中心課題は、全ての農業勤労者を労働党時代にふさわしい革命的な農業勤労者に改造し、国の食糧問題を完全に解決し、農村住民の生活環境を画期的に改変させるための闘争を力強く展開して農村を持続的な発展の軌道上に確実に乗せることである。

農村革命の基本要求は、チュチェ思想の要求を正しく具現して科学的な段階と目標を設定し、年次別計画によって積極的に、革命的に実行していくことである。

新時代の農村革命の基本課題は、思想、技術、文化の 3 大革命を力強くくり広げて全ての農業勤労者を農村革命家にしっかり準備させ、農業生産の持続的な成長を成し遂げ、農村の面貌と環境を改変させることである。

新時代の農村革命を成功裏に遂行するためには、社会主義農村建設にたいする党の指導を強化し、農業に対する国家的投資を目的指向性を持って増やし、農村経営に対する指導と管理を改善しなければならない。

新時代の農村革命綱領は、偉大な金日成主席が示した社会主義農村テーゼの革命的継承であり、新たな高い段階への深化、発展である。

朝鮮を知ろう

【今日の朝鮮】

地政学的に見た朝鮮の地位

朝鮮は歴史的にも、地政学的にも大国の利害関係が絡み合っている戦略的要衝に位置している。

地政学的に極めて重要な位置にあったが、朝鮮は卓越した領袖をいただけなかったために数世紀に渡って列強の角逐戦の場として無惨に踏みにじられてきたし、朝鮮人民は植民地弱小国の運命を甘受せざるを得なかった。

朝鮮の地政学的位置は今、昔と変わりがないが、地政学的地位では根本的な変化が起こっている。

自然地理的要因が国家政治を規定すると見る地政学という言葉が通用し出したのは、第1次世界大戦の時期であったが、朝鮮周辺の大国はすでに久しい前から朝鮮の地政学的位置を重視してきた。アジアの極東に位置した海洋国である朝鮮は戦略的に非常に重要な位置にあった。

朝鮮はユーラシア大陸と太平洋間の「境界地帯」として海洋と大陸を結ぶ「陸橋」つまり「大陸へ渡る橋」となる特殊な地理的位置にありながらも同時に中国、ロシアと日本の交差点に位置していた。

こうした位置によって朝鮮は資本主義発展の道に入った周辺大国の重要な関心の的となった。

特に、アメリカはアジア大陸の関門のような朝鮮の地政学的価値を認識し、19世紀30年代から朝鮮侵略の道を開くために策動した。

1868 年の明治維新後、遅ればせながら資本主義の道に入った日本も資本主義発展の道を海外侵略で求め、その一番目の対象として朝鮮を選定した。

このように朝鮮は周辺列強の利害関係上もっとも重要視される地点に位置していた。

朝鮮の特殊な地理的位置からして、朝鮮を巡る周辺大国はもとより、欧米列強までも朝鮮を自分らの利権を得るための重要な戦略的拠点にしようとした。

たとえ、それぞれの歴史的時期に大国の朝鮮にたいする見解はまちまちであったが、各自は朝鮮半島で利害関係を追及することを放棄しなかった。

現実的に清国、ロシア、日本、アメリカ間に絶えず起こった熱戦と紛争、対立と摩擦、同盟と連合などの全ての連携が常に朝鮮半島を誰のものにするかを置いて成されたということは否認できない歴史的事実である。

朝鮮半島における列強間の角逐戦を揶揄してフランスのある漫画家は一世紀前に橋の下にある「朝鮮」という魚に周辺国がそれぞれ釣糸を垂らしている一枚の漫画を描いたことがあった。

金正恩総書記は朝鮮の地政学的地位を新たに解明して定説のように固まった朝鮮の地政学的宿命論を根本的に変えた。

金正恩総書記は領袖中心論から出発した朝鮮の地政学的地位にたいする完璧な解明も与えた。

金正恩総書記は金日成主席と金正日国防委員長を高く戴いたことにより、朝鮮の地位で起こった根本的な変化を誰よりも先に深く洞察し、それを領袖中心論にもとづいて完璧に解明した。

金正恩総書記は金日成主席の生誕 100 周年慶祝閲兵式で行った演説の中で、昔も今も国の地政学的位置は変わりないが、列強の角逐戦の場

として無惨に踏みにじられていた昨日の弱小国が、今日は堂々たる政治・軍事強国となり、朝鮮人民は誰もあえて侵すことのできない自主的人民として尊厳を轟かせている、朝鮮民族の運命に起こったこの驚異的な出来事は、決して歳月がもたらした偶然ではなく、チュチェ革命の開拓者であり指導者である偉大な金日成同志と金正日同志がもたらした歴史の必然であると述べた。…

金正恩総書記の演説には一国の地政学的位置は変わりないが、一国、一民族の地位は固定不変のものではなく、卓越した領袖をいただく時に当該国の地政学的地位がさらに高まるという偉大な哲理が込められている。

今日、朝鮮は金正恩総書記の非凡で特出した指導によって、国際政治舞台で大きな影響力を行使している。

新時代のチョンリマ（千里馬）精神の創造者

チョンリマ(千里馬)は一日に千里ずつ走る馬であるという意味で、非常に速いスピードで社会主義建設を推し進めて前進する朝鮮人民の革命的気概を象徴的にいう言葉である。

朝鮮では朝鮮労働党中央委員会1956年12月総会を契機にチョンリマ（千里馬）運動が起こった。

総会で現難関を乗り越えて社会主義建設で一大高揚を起こすという革命的方針を示した金日成主席は降仙製鋼所（当時）の労働者を訪ね、総会の基本精神を知らせ、翌年に、１万トンの鋼材を計画外に増産すれば国が一息つける、降仙製鋼所の労働者が集団的革新運動の炎をさらに強く燃え上がらせて社会主義建設の大高揚へ全国のすべての勤労者を奮起させる炎となるようにすべきであると呼びかけた。

朝鮮の全ての労働者階級と勤労者は「チョンリマを駆る勢いで前進しよう!」という党の革命的スローガンを高く掲げて社会主義建設の全ての部門で革命的大高揚を起こした。

降仙製鋼所の労働者は消極性と保守主義、技術神秘主義を粉砕し、年産6万トン能力の分塊圧延機で12万トンの鋼材を生産する奇跡を創造した。こうして革命的大高揚の炎が降仙製鋼所で燃え上がるようになり、降仙製鋼所はチョンリマ（千里馬）大進軍運動ののろしをあげた歴史のところとして輝くようになった。

大高揚の炎の中で党と人民の統一団結がさらに強化され、社会主義建設が急ピッチで推進されて社会主義工業化が強固に築かれる成果を達成した。

朝鮮で社会主義建設の大高揚とチョンリマ運動はまさにこのように始まった。

チョンリマ運動の本質は、すべての勤労者を教育改造して党と領袖の周りにより固く結束させ、彼らの革命的熱意と創造的才能を高く発揮させて社会主義をより立派に、より早く建設するということである。

朝鮮で1950年代末、チョンリマ精神の創造者が降仙製鋼所の労働者であったならば、今日の新時代のチョンリマ精神の創造者は龍城機械連合企業所の活動家と労働者である。

2022年12月に行われた朝鮮労働党中央委員会第8期第6回総会は、社会主義建設で新たな局面を開くための全人民的な闘争をさらに拡大、発展させて5ヵ年計画完遂の決定的保証を構築するという課題を示しながら2023年に龍城機械連合企業所の活動家と労働者、技術者が国の経済発展で重要な意義をもつ各種の特注設備を製作するという課題を提起した。

重要特注設備を製作するという課題を龍城機械連合企業所の労働者階級に一任した金正恩総書記はチョンリマ時代から今日に至る間、

龍城機械連合企業所では技術神秘主義と保守主義を打破しながら朝鮮の技術、朝鮮の力で 6000 トンプレスと 1 万トンプレスをはじめとした多くの機械設備を朝鮮式につくり出した、龍城機械連合企業所は党政策を決死貫徹した英雄的な伝統をもっている企業所であるという最上の信頼を与えた。

総書記の大いなる信頼を受けた龍城機械連合企業所の労働者階級は党が与えた特注設備の生産課題を期日内に終えるために奮起した。

彼らはかつて 1 年間に終えた機械設備の 2.5 倍に達する特大型機械設備の設計を一ヶ月間に終える奇跡を生み出しながら党から与えられた膨大な大型コンプレッサーの生産課題を党が定めた期間内に立派に遂行することにより、新時代のチョンリマ精神の創造者として全国に名を轟かした。

龍城機械連合企業所の労働者階級は 2024 年にも改造・近代化の工事を力強く進捗させながら既存の観念では数年かかって数百台の能率的なコンプレッサーの生産を 6 月末まで終えて石炭工業部門に送る成果を収めた。

普通の胆力と度胸では思いもよらない膨大な二つの事業を同時に展開し、驚くべき奇跡と革新を生み出している龍城機械連合企業所の労働者階級の不屈の闘争ぶりは今日、朝鮮のすべての勤労者に新時代のチョンリマ旗手が果たしてどういう人たちであるかを熱く刻み付けさせ、彼らを 5 ヵ年計画遂行へと力強く鼓舞、激励している。

【朝鮮の歴史と文化】

悠久な歴史を誇る開城の遺跡

平壌から南方へ160km離れたところに位置している開城は高麗（918－1392）の首都であった歴史の都市である。

この地区には高麗時代の歴史遺跡が多い。

代表的に王建王陵と敬孝王陵、善竹橋と表忠碑、高麗成均館と崧陽書院、満月台と開城瞻星台、開城城と開城南大門などの歴史遺跡がある。

釘一本も使われていない木造の建築物として、建築様式が独特であり、高麗時代中葉の観音菩薩像があることで人々の耳目を集めている観音寺と朝鮮5大名鐘中の一つである演福寺の鐘などもある。

開城地区の12の歴史遺跡が2013年に世界文化遺産に登録された。

高句麗古墳壁画

2004年7月、ユネスコ世界遺産委員会第28回会議で60余基の高句麗壁画古墳を世界文化遺産に登録するという決定が全会一致で採択された。

朝鮮人は古代時期から故人を追慕する心とともに故人の霊魂が生きているとする信仰心から墓の内部を生前の生活環境に似せて造営するために墓の内部を絵画を持って装飾した。

高句麗古墳壁画は形式が多様であり、極めて豊かな内容を込めている。

壁画には人物の肖像、生活風俗、風景、動物、静物、花など、装飾的及び象徴的な模様などが描かれている。

千数百年が過ぎた今も変色せず、まるでいま描いたばかりのもののように生々しい古墳壁画は、当代の建築家たちの大胆かつ巧みな建築工学技術と画家たちの闊達で真実味のある、洗練された芸術的技巧をよく見せている。

代表的な高句麗古墳壁画としては黄海南道安岳郡にある安岳第3号墳と南浦市江西区域にあると江西三墓、三石区域湖南里の使臣墓などの壁画があげられる。

朝鮮の無料義務教育制

朝鮮で無料義務教育は抗日革命闘争の時期にその始原を置いている。

1930年代の初め、革命化された広々とした農村地域に建てられた学校と遊撃根拠地—解放地区の児童団学校で史上初めての義務的な免費教育を実施して、無料教育制の経験を積んだ。

解放後、朝鮮では月謝をはじめ、あらゆる教育費負担制を撤廃し、1947年9月1日から大学と専門学校の学生に国家奨学金制を実施した。

朝鮮では全般的義務教育制を無料教育と密接に結び付けて実施した。

1956年と1958年から実施された全般的初等義務教育と中等義務教育はいずれも完全な無料教育によって実施された。

社会主義革命が勝利し、社会主義制度が確立するにつれて、共和国政府は全ての勤労者を国家が完全に責任をもって教育する原則を全面

的に具現するために 1959 年 4 月 1 日から全般的無料教育制を実施することを宣布した。

朝鮮では 1972 年から全般的 11 年制義務教育制が実施され始め、2012 年 9 月に行われた朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第 12 期第 6 回会議で全般的 12 年制義務教育の実施にたいする法令を発布した。

【訪問談】

金正恩総書記の革命思想は正当かつ偉大な思想である

2024年8月、朝鮮民主主義人民共和国を訪問して金正恩総書記の革命思想を知るようになったロシアのある人士はこのように言った。

「金正恩総書記の革命思想は実に正当かつ偉大な思想である。

勝利だけを収めている朝鮮革命の実践は、金正恩総書記の革命思想の正当性と偉大性を確証している。

金正恩総書記の革命思想は朝鮮だけでなく、自主性を志向する世界の全ての国の人民に進むべき道を明示する普遍的な思想であることにより、正当かつ偉大な思想であると言える」

思想第一主義を万能の宝剣としてとらえていく朝鮮

2024年8月、朝鮮を訪問した東欧及び中央アジア地域チュチェ思想研究協会国際連合代表団のメンバーは思想第一主義を万能の宝剣としてとらえていく朝鮮の現実を体感したとしながら次のように吐露した。

「ソ連ではかつて国を豊かに暮らす裕福な国につくるという理念の下に経済事業にのみ偏重したあげく、思想活動をないがしろにした。それで人々の思想が腐敗、変質し、社会に資本主義思想が蔓延するようになった。そのため社会主義を守ることができず、社会主義の赤旗を自分の手で下ろさざるを得なかった。

しかし、朝鮮では思想第一主義、思想万能論をとらえて思想の威力で全ての活動を行っている。それゆえ、朝鮮ではソ連の教訓が繰り返されないだろうと確信する。」

偉大な思想

2024 年 8 月、朝鮮を訪問した東欧及び中央アジア地域チュチェ思想研究協会国際連合代表団のメンバーとモンゴルのチュチェ思想、先軍思想研究協会代表団のメンバーは異口同音に偉大な金正恩総書記の革命思想の偉大さについて称揚した。

東欧及び中央アジア地域チュチェ思想研究協会国際連合代表団のあるメンバーは、偉大な金正恩総書記は金日成主席と金正日国防委員長の革命思想を純潔に継承し、深化、発展させている、ソ連では去る世紀の初めに、レーニンの思想が出現したが、それを現実の要求に即して深化、発展させず強制的に押し付けた。しかし、チュチェ思想は時代の発展に合わせて革新的な内容で深化、発展させたことにより、永遠な生命力をもつと言った。他のメンバーは金正恩総書記が示した「玉子にも思想を詰め込めば岩を砕くことができる」という名言は、人々の思想、人民大衆の精神力を発揮させるとき、不可能なことがないという深奥な真理を込めている、ロシアに帰ると、政治活動にこの名言の思想を具現するとし、金正恩総書記の革命思想は偉大な思想であると吐露した。

モンゴル・チュチェ思想、先軍思想研究協会代表団のあるメンバーは、この 10 年間に朝鮮は多く変貌した。これは偉大な金正恩総書記の革命思想がもっている真理の力で前進する朝鮮の現実をそのまま示し

ている、偉大な思想が前途を照らす朝鮮は思想の大国であると強調した。

私たちも朝鮮に学ばなければならない

2024年8月、朝鮮を訪問した外国のある人士は，数年前に朝鮮を訪問したときより見違えるほど様変わりをした平壌市と地方の様子を見て、朝鮮のチュチェ思想に対する新しい見解を持つようになった、訪問期間最も印象的であったのは、町を歩く青年たちの明るい目つきから未来に対する彼らの確信を感じ、学校に掲げた「朝鮮のために学ぼう！」というモットで深い感銘を受けたことである、と言った。

続けて朝鮮の愛国主義教育についてわが国でも学ばなければならないとし、訪問期間に受けた印象があまりにも深いのでチュチェ思想について、特に金正恩総書記の革命思想についての文を書いて、わが国の青少年たちに解説宣伝する考えを持つようになったと話した。

「アメリカ自身が認めている」

2024年8月、朝鮮を訪問したロシア東欧及び中央アジア地域チュチェ思想研究協会国際連合代表団のあるメンバーは、敬愛する金正恩総書記の優れた政治実力によって朝鮮にもたらされた奇跡的な変革を直接体感して次のように吐露した。

「朝鮮に対する制裁は帝国主義者の悪あがきの現れである。制裁項目に子供たちの玩具も含めているが、これは至極反人類的な行為である。

にもかかわらず、朝鮮では金正恩総書記の独特な政治方式によって、興味深い出来事が起こっている。

アメリカのある通信社の記者は、アメリカが世界面積の 3 分の 1 にわたる国々に制裁を加えているが、朝鮮にはそれが通じないと言った。

アメリカが他国よりずっと前から朝鮮に制裁を加えているが、現時点で朝鮮には発展のための好ましい状況がつくられている。

朝鮮の偉大な指導者、世界人民の傑出した師である金正恩総書記の指導があるからだと思う。敬愛する金正恩総書記はすべての難局を打開する方途を見出して、発展と繁栄へと人民を導いている。アメリカ自身がこれを認めている。」

【国と地域は異なっても】

偉人の偉業は偉人によってのみしっかり継承される

偉人の偉業は偉人によってのみしっかり継承されると言われている。

金正日国防委員長の偉業は、金正恩最高司令官によって立派に継承されている。世界は金正恩最高司令官の偉人としての品格から大きな衝撃を受けている。

世界の言論は東方朝鮮における若い偉人の登場が 21 世紀の政治軍事情勢に重大な影響を与えることに見込まれると言いながら金正恩指導者は普通の指導者たちには見られない信念と意志、胆力と度胸、知略と用兵術、人間愛と信義を身につけているが、これらの天稟は朝鮮に永遠な百戦百勝をもたらすであろうと確言している。

世界はこの確言をすでに現実で見ている。

この衝撃的な事実について思索を集中する過程に私は、金正恩指導者の優れた政治実力と鉄の意志が朝鮮の百戦百勝の歴史が激しく流れるようにし、この歴史が 21 世紀を引きつつき大きく揺るがしていくだろうという主張をたてるようになった。

いま世界の言論は金正恩指導者が現世の最も若い指導者として惑星の中心に立って 21 世紀を反帝・自主へと主導していく、ぬきんでた偉人であると激賞してやまない。

実に金正恩指導者はあの天から地球に降りてきた今一人の不世出の偉人である。

世界政治舞台では金日成時代、金正日時代に次いで金正恩時代が厳かに開かれている。

（国際金日成賞理事会前書記長、チュチェ思想国際研究所前理事長、社会政治学博士ビシュワナスが 2012 年に発表した記事）

諸国のチュチェ思想研究組織代表団がピョンヤンを訪問する

ミハイル・パンチェンコ総書記を団長とする東欧及び中央アジア地域チュチェ思想研究協会国際連合代表団が 2024 年 8 月 1 日から 8 日まで、ナンジン・ドルジスレン執行委員長を団長とするモンゴル・チュチェ思想、先軍思想研究協会代表団が 8 月 27 日から 31 日まで、林容子静岡チュチェ思想研究会副会長を団長とする日本チュチェ思想研究組織代表団が 10 月 10 日から 15 日まで朝鮮民主主義人民共和国を訪問した。

代表団は滞在期間、朝鮮革命博物館、祖国解放戦争勝利記念館、国際親善展覧館、自然博物館、チュチェ思想塔、凱旋門、解放塔、江東総合温室農場、江西鉱泉水工場などを参観した。

代表団のメンバーは、訪問期間、朝鮮社会科学者協会の研究士たちとチュチェ思想の研究普及で提起される学術的問題について懇談を行なった。